

九州支部

源河圭一郎

琉球大第2病理 岩政輝男

症例は77歳女性。発見動機は血痰で胸写上、両側中下肺野に径10ないし30mm大の結節影の散在を認めた。結節の病理像は、HE染色でエオジン好性の無構造物質で、コンゴ赤染色にて赤橙色に染まり、過マンガン酸に抵抗性であり偏光像では緑色の複屈折陽性。電顕像では8~10nm幅の細線維構造が認められた。免疫化学染色では抗AAアミロイドが陰性であり、基礎疾患を認めず肺原発の多発性AL型アミロイドーシスと考えられた。

20. 経過中腫瘍径の増大を認め

た肺乳頭状腺腫の1例

長崎市立市民病院内科

池田真帆, 高谷 洋, 道津安正

神田哲朗, 石崎 驍

同 外科 小原典博

同 病理 河合紀生子

長崎大第2内科 岡三喜男

河野 茂

症例は48歳男性。平成7年9月、胸部X線写真で右S⁴に10×15mmの結節状影あり初診。経気管支肺生検では特異的所見なく以後放置されていた。平成9年11月、陰影の増大を認め再診。胸部CTで右中葉に30×18mmの辺縁が分葉化した腫瘍を認め、造影効果は著明であった。2年間で明らかに腫瘍が増大しており、悪性の可能性否定できず、診断的治療目的で平成10年2月、開胸肺切除術施行。術後診断は乳頭状腺腫であった。

21. 肺癌に合併した肥大性骨関節症の1例

大分市医師会立アルメイダ病院

呼吸器科 植西佳子

大分県立病院第3内科

井上俊治, 仲間 薫, 宮崎幸重

同 第2内科 那須 勝

肥大型関節症は、肺癌などの呼吸器疾患に合併することが多い骨膜新生、関節炎及びばち状指等の病態を呈する症候群である。今回我々はこの典型的な症例を経験したので報告した。症例は69歳、男性で肺腺癌診断後約4ヵ月後よりばち状指、大腿・下腿の疼痛等が出現、骨単純X線にて両下肢骨膜に著明な集積を認めた。肥大型骨関節症の検出には骨シンチグラフィが良い手段であることが改めて確認された。

22. 視力障害にて発症し、診断に苦慮した肺腺癌の癌性髄膜炎の1例

熊本市市民病院呼吸器科

廣佐古進, 田中不二穂

藤本めぐみ, 今村文哉

土井俊徳, 福田浩一郎

岳中耐夫, 志摩 清

肺腺癌の71歳男性。T2N0なるも視力低下あり。眼底、視神経MRI、頭部造影CT異常なく、髄液蛋白・細胞数増加あるも異型細胞なし。家族の強い希望で左下葉切除術を施行したが術後の髄液で異型細胞を認め、癌性髄膜炎と診断。術後の頭部造影MRI (Ga-DTPA)で右側脳室内の腫瘍を認めた。視力、聴力ともに消失。癌性髄膜炎の初発症状が視力障害のみで術前診断が困難であった。今後の教訓とすべき1例と思われた。

23. ACTH産生腫瘍の1例

佐世保市立総合病院内科

眞崎義憲, 荒木 潤, 泊 慎也

夫津木要二, 浅井貞宏

同 病理 岩崎啓介

長崎大第2内科 河野 茂

低カリウム血症と色素沈着を呈したACTH産生腫瘍を経験したので報告する。症例は45歳、男性。肺小細胞癌と診断されCPT-

11+CDDPの化学療法を施行、PRとなり退院。3ヵ月後再発を認め再入院。その際全身色素沈着と低カリウム血症が認められた。低カリウム血症は正困難なためACTHを測定したところ854.7 pg/mlと著明高値を認めACTH産生腫瘍と診断した。剖検で腫瘍の免疫組織染色を行いACTH産生を確認した。

24. 同時性副腎腫瘍を伴った肺癌の1例

佐世保市立総合病院内科

荒木 潤, 眞崎義憲, 泊 慎也

夫津木要二, 浅井貞宏

長崎大第2内科 河野 茂

肺癌と共に同時性副腎腫瘍を切除した症例を報告する。症例は72歳、男性。肺扁平上皮癌と診断され、転移病巣の検索をしたところ腹部のCT scan, MRIで左副腎に径1cmの腫瘍を認めた。脂肪織がないことから転移が考えられ、化学療法を施行した。原発巣の効果は有効であったが、転移巣は無効のため、手術を施行した。その結果、副腎は皮質の結節性過形成であった。同時性副腎腫瘍は診断が困難であるが、積極的診断も必要と考えた。

25. 若年者原発性肺癌の1例

下関厚生病院外科 小林広典

熊本大第1外科 森 毅

吉岡正一, 田平洋一, 北村信夫

今回我々は、小児原発性肺癌の1例を経験したので報告する。症例は14歳男。97年4月に左大腿骨遠位端の骨肉腫と診断され、当院整形外科にて化学療法の後、切除術を受けた。同時性に左S6に径約5mmの結節影を認めており、化療にてもサイズの変化はなかった。11月19日骨肉腫の肺転移を疑い、肺部分切除術を行った。病理所見では、EMA、